

ヒサマツミドリ雌の斑紋について

1. はじめに

つい最近まで、本種はZephyrusの中では極めて珍しい種の1つで、同好者にとっては垂涎的でもあった。しかし、食樹がウラジロガシであることが判明してからは、各地で新しい産地が発見され、今では、東は山梨県から西は九州にまで生息していることが確認されさほど珍しい種でもなくなっている。

従って、分布についての興味は徐々に薄らいではいるが、雌の斑紋については従来考えられていた以上に変化に富んでいることがわかり、近年話題をなげかけている。

本種の雌の斑紋は、川副・若林(1976)をはじめ、他の図鑑類でもA B型が大部分で、希にB型があるとされているが、中村(1978)は、島根県匹見町産の本種の雌を100頭検視した記録に静岡県水窪町産や、二町(1977)の霧島山荒襲産の記録を加え、これらの資料をもとに、本種の雌の斑紋は、中国地方以西では決して稀なものではないという見解を述べられている。そして、日本列島を南西部に行くに従ってB型の発生する頻度は高くなることも指摘されている。

因みに、B型の出現率は中村(1978)によれば、表1、2、6の通り、静岡県水窪町産では1.6%、島根県匹見町産では17.2%、霧島山荒襲産では27.7%となっている。

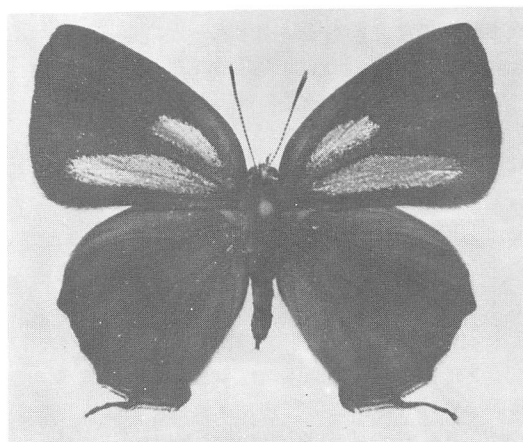
その他の記録としては、安川(1982)の京都府舞鶴市宮津市の7.4%があるが、この数値は、静岡県1.6%と島根県17.2%の約半数に当り、中村(1978)の日本列島を南西部に行くに従ってB型の発生する頻度は高くなるという説を裏付けている。

筆者は従来、近畿地方での雌の斑紋については、A B型がほぼ100%に近い状態で発生するものと思っていたので気にも止めていなかった。しかし、1982年に飼育した兵庫県一宮町の個体の中からB型が1頭羽化したことから、同地の個体や滋賀県永源寺町産の個体を当て見た結果、少ないながらB型が見られたので、本種の雌の斑紋変異の傾向をより明確化するため報告した次第である。

他の地域との比較をするために、中村(1978)と安川(1982)のデータをそのまま引用させていただいた。また二町(1977)の文献は筆者の手元にないので中村(1978)を引用している。

本稿を草するに当り、徳岡正己、黒田収、佐々木薫

広畑政己



入江照夫、木村三郎、花岡正、近藤伸一、岩村巖、竹内俊行、八木弘、石塚祺法、高島千洋の諸氏に御協力いただいた。ここに記してお礼申し上げる。

2. 雌の斑紋の分類の方法

斑紋の分類については中村(1978)に従った。すなわち、橙色斑の全く表れていない型をA0とし、以下1個表れたものをA1、2個のものをA2、3個をA3とした。また、青色斑は表れていないものをB1とし、以下B2、B3、B4と分類した。中村(1978)では、ルーペで見て少しでも橙色、青色の鱗粉のあるものは鱗粉の存在が認められたとして各型に分類しているが、兵庫県、滋賀県のものについては肉眼にたよった。また、前翅でも左と右では相違が見られ、いずれに分類するかとまどったが、表れた程度の多い方で分類している。

3. 兵庫県産、滋賀県産の雌の斑紋

検視した個体数も少なく、発生頻度はこの通りではないかもしれないが、このたび調べた結果では、B型の発生比率は表3.5の通り、兵庫県一宮町産は77頭中2頭の2.6%となっており、滋賀県永源寺町産は88頭中1頭の1.1%となっている。この数値は同じ近畿地方にある、北部の舞鶴市宮津市の7.4%と比較するとかなり低いものである。逆にA型の発達がよく、A2斑を例にとると、霧島山産では53.2%、匹見町産は61.7%

鶴市宮津市産では76.5%、水窪町産では63.9%となっているのに対し、一宮町産は92.2%、永源寺町産は9.9%とA斑が顕著に表れているのが目につく。青色の色彩については、紫色のもの、藍色のもの、その中間ものなどさまざまあり分類が難しいので割愛した。

図1. B型斑を比較した6地域概念図



図2. 雌の斑紋の分類

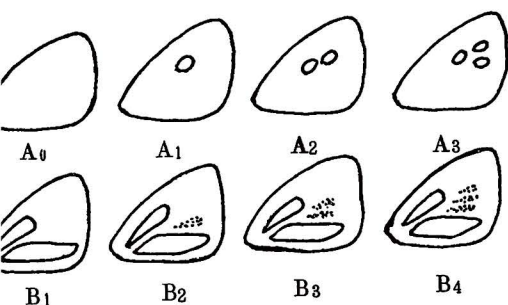


表1. 霧島山荒蜆産雌の斑紋 中村(1978)

B斑 A斑	B1	B2	B3	B4	計	斑紋
A0	2	3	8	0	13	B型
A1	1	2	5	1	9	AB型
A2	2	14	9	0	25	
計	5	19	22	1	47	

※47頭中のB型の比率27.7%

表2. 島根県匹見町産雌の斑紋 中村(1978)

B斑 A斑	B1	B2	B3	B4	計	斑紋
A0	1	10	13	4	28	B型
A1	2	9	17	6	34	AB型
A2	23	25	43	9	100	
計	26	44	73	19	162	

※162頭中のB型の比率17.2%

表3. 兵庫県一宮町産雌の斑紋

B斑 A斑	B1	B2	B3	B4	計	斑紋
A0	2	0	0	0	2	B型
A1	0	3	0	0	3	AB型
A2	21	22	27	1	71	
A3	1	0	0	0	1	
計	24	25	27	1	77	

※77頭中のB型の比率2.6%

表4. 京都府舞鶴市宮津市産雌の斑紋 安川(1982)

B斑 A斑	B1	B2	B3	B4	計	斑紋
A0	5	1	0	0	6	B型
A1	6	1	1	0	8	AB型
A2	33	27	2	0	62	
A3	5	0	0	0	5	
計	49	29	3	0	81	

※81頭中のB型の比率7.4%

表5. 滋賀県永源寺町産雌の斑紋

B斑 A斑	B1	B2	B3	B4	計	斑紋
A0	0	0	1	0	1	B型
A1	0	0	3	0	3	AB型
A2	16	26	37	1	80	
A3	0	1	2	1	4	
計	16	27	43	2	88	

※61頭中のB型の比率1.6%

表6. 静岡県水窪町産雌の斑紋 中村(1978)

B斑 A斑	B1	B2	B3	B4	計	斑紋
A0	1	0	0	0	1	B型
A1	12	3	5	1	21	AB型
A2	25	4	7	3	39	
計	38	7	12	4	61	

※88頭中のB型の比率1.1%

4. 参考文献

- 1) 中村泰士(1978) ヒサマツミドリシジミ♀の斑紋変異 すかしば(10:1-4
- 2) 安川謙二(1982) 丹後産ヒサマツミドリシジミ♀の斑紋について 舞鶴22:3-4

Masami Hirohata 〒671-22 姫路市